



新年明けましておめでとうございます。
旧年中に賜りましたご愛顧に厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。
さて、皆様はどんなお正月をお過ごしでしょうか？きっと手賀沼で初日の出をみて、お墓参りと竹内神社に初詣に行き、おせち料理でお酒を飲んで、テレビで箱根駅伝を見て中央学院大学を応援している事でしょう。(これは毎年の私の過ごし方でした。笑)私は、仕事も余暇も楽しんで、ケガや病気をしないで、毎日平和で笑顔で、美味しいものをたくさん食べて、たくさん良いことする年にしたいと祈願いたします。
2026年はどんな一年になることでしょう。楽しみですね。
今年も皆様にとって良い年でありますように。

2026年1月8日発行（毎月12回2・4・6・8の日） 第5723号
SSTL1994年8月24日第三郵便物承認
1994年8月24日 第三種郵便物承認

～そよ風のように出よう～

S S T L
つくばね通信



社会福祉法人つくばね会
代表 千葉県我孫子市都部新田37-2

TEL 04-7187-1944
FAX 04-7187-1947

HP <http://tukubanekai.sakura.ne.jp/>

編集・発行：けやき社会センター・はるか
おおばん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

ふれんずは、夏休みが終わると季節が進む感覚がより早く感じます。移転して初めて新しい年を迎える事となりました。ふれんずを利用する方々にとって良い年となるように願っております。

私には社会人2年目の長男と高校2年生の次男がいます。長男は引き続き入所施設で支援をしており、日々楽しく支援をさせていただいているよう安心しております。一方、高校生はというと長年続けていたサッカーを辞めました。(元々超が付くほどインドア派で休日は家で過ごす事が好きな子でした。3歳の頃に新幹線を観に上野駅まで出かける計画を立て、ベビーカーに乗せ電車に乗り、我孫子駅で乗り換えをしていたその時に本人から「かえろか～」と一言。即帰宅となるエピソードもあります。)友人から誘われ小学2年生からサッカーを始め、私も1年遅れで親コーチとしてチームに参加させていただきました。(私自身は、物心が付く頃から父の勧めで野球チームに入り野球経験が長く、サッカーの知識はサッカーゲームや試合観戦で培い、プレー経験は浅く日韓ワールドカップ熱でバイト仲間と作った草サッカーしかない状態)コーチの役割として、練習をサポートする事は勿論の事、大会の審判をするという他チームの成績に関わる大事な役目もあり、審判の勉強もたくさんしました。サッカー観戦をしている方々は承知の通りですが、審判は瞬時に判断しジャッジしなくてはいけません。そこに迷いが生じると反則行為が見逃されたまま試合が進んでしまって、公平性が欠けてしまうからです。大人の試合でもジャッジが難しいのに、子どもの試合となると体が小さく見えづらく苦労しました。常にプレー(ボール)に近い場所でジャッジする事を心掛け走り回り、恐らく試合をしている子ども達より走り回っていました。大変な役回りですが、子がサッカーをプレーする姿が見られる事で、審判ストレスが解消される事は言うまでもありません。中学校に進学し、数あるクラブチームではなく、部活でのサッカーを選び、たくさんの試合を観戦させてもらいました。中学校最後の試合は、仕事により観戦に行けなかった事が心残りではありますが、引退試合の大会が実家近くで開催されたため、私の親が観戦でき大変喜んでいました。高校ではサッカーはやらないと思っていましたが、入部し練習に励んでいました。しかし、入部してみると100名を超える部員数に驚きました。さらに現代の高校サッカーはクラブチーム所属の生徒が多く、中学部活の生徒は少數派であり、なかなか上のカテゴリーには行けない日々。高校2年生になり、新入生の入部で部員数が増加したタイミングでの怪我にモチベーションを保てなくなり、「部活を辞める」と決断し退部となりました。「10年間お疲れ様」と労うと「ああ」との返事が一言返ってきました(涙)。余談ですが、スペアで買ったスパイク(新品)はどうするのだろうか?と思っています。

(ふれんず 管理者 栗原 大介)

大自然！海と山！鴨川旅行！！

毎年恒例けやき社会センター旅行！！今年の行き先は自然豊かな“海+山”の中、ゆったりした時間が流れる鴨川方面へ行きました。期間は11月6日(木)～7日(金)の1泊2日、天候にも恵まれ、私自身、半袖で過ごせるくらいのポカポカ陽気でとても気持ち良い旅行となりました。

今回は利用者の方30名、付添職員17名の計47名の大所帯ということで賑やかになること間違いないしと職員は意気込んで行きました。

1日目は鴨川シーワールドへ！行きの車内では利用者の皆さんは比較的落ち着いていましたが、シーワールドへ到着し、昼食に南国メニューのライスボールや丼、パスタなど、それぞれ好きなメニューを食べると美味しくてニコニコする方、黙々と食べる方と様々な表情を見せてくださいました。昼食後は皆さんが見たいと希望していた「シャチショー」を観覧しました。客席の前列の方には「この席は濡れます」というような説明が書かれており、「まさかこんなところまで水は掛からないでしょ～」と疑いながらも、少し恐怖を感じていたので一応後席へ避難…。早速ショーが始まり、いきなり冒頭からシャチがジャンプし、客席に水しぶきが大量にヴァツシャ～ン！？「え～～～！？」と皆さんびっくり！後席に座っていて良かったとホッと胸を撫で下ろし、素晴らしいショーに歓声を上げながら観覧しました。ホテルでは温泉を済ませたらお待ちかねの大宴会！房総の美味しい料理を頂きながらカラオケ大会を行い、歌にダンスにと大盛りあがりでした！

2日目は日本にいながらも、まるでドイツの休日のような時間を過ごすことが出来る東京ドイツ村へ！ホテルの朝食バイキングで皆さんお腹がいっぱいと言っていたにも関わらず、鳥照り焼き丼や大きなソーセージ付きカレーをペロリとたいらげていました。食後は広々とした芝の上を走り回ったり転げ回ったり、記念写真やお土産等、思い思いに充実した時間を過ごしました。

帰りの車内ではすでに「来年はどこに行こうか？」と話題に出ており、職員は「まだ家に着くまでが旅行ですよ！落ち着いて！」とヘトヘトな声をかけながらも、楽しんでもらえて良かったと安堵感と達成感に満ち溢れました。

（けやき社会センター 吉田 寛貴）



はるか旅行 in 埼玉

気候も涼しく秋の深まりを感じる10月16日から1泊2日で埼玉へ旅行に行ってきました。

初日の目的地は所沢、西武園ゆうえんち。昭和の街並みが再現された商店街通りはまさに時が止まっているかのよう。利用者さんの何人からかは「懐かしいなあ！これ昔あったよなあ！」という声も。遊園地ではジェットコースターやコーヒーカップ、メリーゴーランドやSLなどがあり、どれも程よい大きさで、普段は苦手で乗らないと言っていた方も「私も乗ってみる！」と挑戦され楽しまれています。宿泊先はゆうえんちから歩いて程なくの中華割烹旅館 掬水亭。全ての部屋から多摩湖や富士山が望めるレイクビューとなっており、特に翌日の朝食時は景色を見ながら豪華な定食を食べ、「景色すごいね！きれいだね！」と、景色もご飯も美味しく頂くことができました。

2日目は川越散策。川越氷川神社から小江戸までを練り歩きました。神社では多くの方がおみくじを引かれ、なんと大吉多数！日頃お仕事を頑張っているたまものでしょうか。おみくじを開き、「これってどういう意味！？」と内容に興味深々でした。小江戸では蔵造の街並みや「時の鐘」に江戸を感じつつ、その場所ならではのパンやデザートを買って盛り上りました。

例年とはまた違った場所、プランならではの苦労もありましたが、あらためて感じたことは、皆さんが揃つていればなんでも楽しむことが出来るということです。また来年の旅行を楽しみに、はるかB型一丸となって仕事に取り組んでいこうと気持ちを新たにした旅行となりました。

秋空旅行

（はるか社会センター 吉田 寛貴）



おおばん旅行～初の都内旅行へ～

今年のおおばん旅行は11月20日(木)から都内・横浜1泊2日の旅行に行ってきました。利用者の皆さんには数ヶ月前からこの旅行を待ちにしており、車内では出発直後から会話が弾み、笑顔があふれました。

1日目はサンリオピューロランドでグループに分かれ、ステージ鑑賞やアトラクション巡りを楽しみました。平日にもかかわらず多くの来場客がいて少し心配もありましたが、乗り物が苦手な方でも楽しめるアトラクションが多く、皆さん嬉しそうな表情を見る事ができました。利用者の中には「ディズニーランドみたいで面白いね」「初めて来たけど、お城みたいだね」と感想を口にする方もおり、館内の雰囲気を満喫されていました。宿泊先では宴会場を貸し切り、お肉料理やお刺身(お寿司)など豪華な食事を食べる事ができ、嬉しそうでした。余興では旅行先にちなんだクイズを実施し、職員と一緒に答えを考える姿や正解をしたらハイタッチをする場面も見られ、会場は終始賑やかでした。また、管理者が作ってくれた「半年間の思い出ムービー」を上映し、自分の写真が写ると「私だ！」と嬉しそうに指をさす方も多く、思い出を振り返る素敵なお時間になりました。

2日目はよこはま動物園【ズーラシア】へ。「生命との共生、自然との調和」をテーマに生息環境の近い形で動物が展示されています。その為動物探しを楽しみながら散策しました。動物を見つけた瞬間に「いたよ！」と教えてくれたり、写真を一生懸命とる姿が印象的でした。横浜へ移動する際の車内では海やロープウェーなどの景色に皆さん歓声をあげ、風景観察も道中の楽しみとなっていました。中華街では昼食を食べた後、

お土産探しを行いました。食後のデザートでアイスクリームを買って味わう方や家族のお土産に悩む方もおり、それぞれ自由な時間を満喫していました。

今回は都内へ挑戦ということもあり、人混みや渋滞など不安もありましたが、大きなトラブルもなく、皆さんが楽しく2日間を過ごしている姿が見れ、私も嬉しく思いました。

（おおばん 平間 聖佳・植木 しほ）



関東社会就労センター協議会研究大会 in 長野に行ってきました

令和7年11月2日(木)・3日(金)の2日間、令和7年度関東社会就労センター協議会研究大会 in 長野が、『あなたしく笑顔で生きて』をテーマに長野ホテル犀北館にて開催されました。

第1日目は、綿貫好子氏(長野県セルプセンター協議会理事長)からの開会の挨拶でスタートしました。次に、荒井康平氏(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課就労支援専門官)より「就労系障害福祉サービス施策の動向」と題して行政報告をいただきました。お昼休憩を挟んで、歓迎アトラクション『樂団ケ・セラ』による演奏が披露されました。続いての基調講演では、本田秀夫氏(信州大学医学部教授)より「発達障害のある人の就労支援・自立支援」と題して、法制度や医学概念での位置づけから代表的発達障害の解説と発達障害本来の特性や共通事項、更には、小児期から成人期にかけての変化そして、成人期における3パターンについて、他にも「選好性の偏り」、「過剰適応」、「環境との相性」を支援のポイントとし、「Duty-Fun-Balance」「本人に合わせた環境調整」「選好性を軸にした支援計画の立て方」「内面理解の大切さ」などをキーワードに事例を交えながら分かりやすくお話しいただきました。

その後のトークセッションでは、荒井専門官、本田先生、綿貫理事長、そして、上篠尚史氏(エプソンミズベ(株)代表取締役)、鈴木暢氏(関東社会就労センター協議会会長)をお迎えし、5名からそれぞれの取組や思い、そして、話したりなかった事をお話しいただいた後に、それぞれの立場から参加者からのご質問に回答されるという貴重な意見交換が行われました。

第2日目は、社会福祉法人くりのみ園の見学に行きました。くりのみ園では、鶏舎や畑で育てている野菜を見ることが出来ました。園の取組として6次産業化や有機JAS取得を行い、付加価値をつけることや地域に根を張るために法人が認定農業者の認定を取得し、日本農福連携協会の会員にもなり一員となることで、農業を担う地域化が進んだことで、地域への貢献が認められ地域のインフラになれたと説明を受けました。畑作業に係る関わる職員として成功したモデルケースを見る貴重な時間となりました。また、地域のインフラとなれたという言葉は、そこに至るまで苦労などを想像し思いをはせると、とても重みがある言葉だと心に残りました。それから、お話を聞きながら、おおばんの生産活動の中にも法人の公益性を高めるためにコミットできる事業が2つあると思いました。その2つは人が生きるために必要な食に関わるもので、畑での野菜作りと宅配弁当となります。これらの事業を長く継続し、将来の道筋を描き、地域のインフラになれるように上手にブランディングして育てることが出来れば、自分たちも今まで以上に地域貢献が出来るのではないかと思いました。2日間を過ごして、支援基礎や支援への思いなど支援者として原点に立ち返り、就労支援のこれからの未来に向けて参加者同士がともに考え、学び、実りある機会となった本研究大会に参加させて頂きありがとうございました。

(おおばん 吉田 将人)

福祉のきっかけ

幼稚園の時、隣のクラスに知的障害の女の子がいました。まだ障害の事など何も分からず、みんなと違うなと思いながら一緒に遊んでいました。中学校に進学後、学校には支援学級があり、幼稚園の時に遊んだ女の子と再会しました。

私の事を覚えていてくれ、会話は難しい子でしたが会うと笑顔で近くに来てくれました。まだ支援学級が今よりも少ない時代、周囲からの支援学級の皆さんに対する嫌な対応を見かけることもありましたが、その時は何も出来ませんでした。高校3年の時に進路を決める際、何か専門の職に就きたいと考え、大学では無く福祉の専門学校に行く事に決めました。まだその時は福祉職に就きたいなど具体的な事は考えておらず、専門学校が家から近い事と、見学に行った際に色々興味深い事があったため軽い気持ちで入りました。

専門学校に入り、ボランティアで福祉施設のお祭りやバザーの手伝いに行き、障害のある方たちと関わることが多くなり、中学の時に嫌な対応をされている支援学級の子たちに何もしてあげられなかつた事を思い出しました。その事がきっかけで、「何か私に出来ることは無いか」と考え福祉職に就くことを決め、つくばね作業所に就職し、現在まで福祉職を続けています。

(けやき社会センター 進藤 美幸)

我孫子市福祉施設連絡会の活動紹介

私は2024年度から、我孫子市福祉施設連絡会(以下、連絡会)の副事務局長を務めています。連絡会には現在、我孫子市内で障がいのある方に関わる22の施設が参加しており、今回はその活動内容をご紹介します。

連絡会では、地域に根ざしたさまざまな取り組みを行っています。主な活動としては、平和台病院内「ハートショップ」への委託販売のほか、「福祉フェスタ」や「ジャパンバードフェスティバル」「健康フェア」「地域とつながるマルシェ」など、地域イベントへの出店などがあります。また、施設職員同士が悩みや課題を話し合うグループワークや、防災・虐待防止に関する研修会の実施、年2回の懇親会による職員同士の親睦を図っています。さらに、利用者の方々の交流を目的とした人形劇やスポーツレクリエーションも人気の活動です。昨年度は湖北特別支援学校の体育館をお借りして運動会を開催し、約60名の障がい者施設の利用者の方にご参加いただき、笑顔と活気にあふれる楽しい時間となりました。

この連絡会の魅力は、障がいのある方がより良い支援を受けられる地域づくりを目指して施設、事業所同士が協力し合い、情報共有や課題解決、イベント運営などを共に行っていることです。会員同士のつながり



が深まることで支援の質が高まり、地域全体の福祉の向上にもつながっています。今後は、我孫子市の若手福祉職員の方々にも積極的に参加していただき、連絡会の魅力や団結力を実感してもらえるような活動を続けていきたいと考えています。そして、「福祉って面白い」「地域で支え合って素敵だな」と感じていただけるような会にしていきたいと思います。



おにぎり作りにチャレンジ

今回は食欲の秋らしく、子どもたちと一緒に昼食作りとして、「おにぎり作り」に挑戦しました！(*小中学生の学校行事の関係上、振替休日の日に実施いたしました。)

職員の数を含む14人分(1人2個ずつ)のおにぎりを作るにあたって、ご飯を適量取ることや適度な力で握ることでご飯が崩れず形成されることなどのポイントを伝えながら、いざ実践！子どもたちは用意されたラップの上にご飯をのせ具材の量を調整し、優しく包みながら形を整えていきました。具材の量を調整する場面では、2種類を豪快に混ぜ合わせたり、おにぎりの個数を考え控えめな量だったりと各自の性格が現れています。手先を上手に使って形を整えたり、力加減を調整したりなど、それが工夫し、手のひらサイズのおにぎりからジャンボおにぎりまで色々な形のおにぎりが完成しました！最後はみんなで「いただきます！」自分たちで作ったおにぎりは格別で「おいしい！」と笑顔が見られ、職員に対し「おいしい？何点？」と期待いっぱいに聞く姿も見られ、仕上がりは堂々の“120点”でした！

今回の活動を通して、自分たちでご飯を作る楽しさや大変さ、誰かのために作ってあげるという気持ちを経験できたのではないかと思います。

今後も様々な形で、子どもたちと一緒にチャレンジしていければと思います。

今回のおにぎり作りも愛情たっぷり大成功でした！

(☆おにぎりの他におかずでは餃子・唐揚げ・ウィンナー餃子・ナゲットなどの用意をし、盛り沢山のメニューとなっております。)



(ふれんず 松崎 李星)

～現場から考える『共に生きる支援とは』～

2016年7月に起きた津久井やまゆり園事件は、19名もの尊い命が奪われた福祉の現場にとって決して忘れてはならない悲しい事件で、当時の私は福祉の仕事にまだ携わっていましたがニュースを観て衝撃を受けた出来事でした。改めて、犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。加害者が障がい者の命の価値を否定するような言葉を残したことは、私たち福祉職に深い衝撃と問いを投げかけました。「障がいの有無にかかわらず、『すべての人が尊重される社会』とは何か」、私自身、現在福祉に携わっている者として改めて考えさせられました。

私は現在、放課後等デイサービスで主任として勤務しています。日々児童たちと関わる中で感じることは、一人ひとりが異なる個性や可能性を持ち、それぞれが表現の仕方があるということです。言葉で伝えられなくても、表情や仕草や行動で「自分」を伝えようとする姿があります。その思いを丁寧に受け止めることができ、支援者としての第一歩であり、尊厳を守ることに繋がるのだと思います。

この事件を通して、「障がい者の人権」について考えました。人権とは、誰かが与えるものではなく、誰もが生まれながらに持っているものです。支援の場では、日々の何気ない関わりの中に尊厳を守る姿勢が必要であり、【〇声の掛け方〇行動の制止の仕方〇選択の機会の与え方】その一つひとつに支援者としての価値観が表れます。だからこそ、常に「この関わり方は本人の思いを大切にしているか」を考えながら支援に向き合うことが大切だと思います。また、現場で支援を行う際には、職員間での価値観や支援方針の共有が欠かせないと思います。私自身、チーム全体が一つの方向を向いて支援できるよう、日々のコミュニケーションを大切にしています。職員がそれぞれの感じたこと・気付きを引き出しながら支援の意図や目的を共有するように心掛けています。様々な意見が多く出ることがありますが、そこで大切なのは「正しさ」を競うことではなく、「より良い支援」を共に考える姿勢だと思います。それには、若手職員や経験が浅い職員でも安心して意見が言える環境作りも必要です。職員同士で困ったときにすぐに相談できる関係性を築くことは、支援の質を高めていく上でとても重要です。主任として私は、現場の声を吸い上げ、管理職や他事業所につなぐ『橋渡し役』としての責任を意識しています。互いを尊重し、信頼し合えるチームを育てることが、利用者一人ひとりの安心にも繋がると感じています。

今後も私は、利用者の方々が安心して自分らしく過ごせる環境を提供していくことを大切にしたいと思います。そのために利用者の方の気持ちを中心に考える支援、そして職員一人ひとりがやりがいを持って支援に取り組めるチーム作りを目指して行きます。支援とは「教える」ことではなく、「共に歩む」ことだと私は思います。その姿勢を忘れずに児童たちの「できた」「嬉しい」を一緒に喜べる存在でありたいです。

つくばね会の法人理念である“共に生きる”について私は、すべての人がそれぞれの価値を持ち、社会の一員として尊重されることだと思います。障がいの有無にかかわらず、互いのことを理解し合い、相手を一方的に支援するのではなく、関わりの中で共に学び成長していくこと姿勢が求められます。支援者と利用者という立場の違いを超えて、人として尊厳を守り合うことが、私たち福祉職が目指す「共生」の形だと感じています。共に生きる社会を実現していくために、私は現場の一人として日々の実務経験を積み重ねていきたいと思います。

（ふれんず 塚原 辰弥）

けやきまつり2025！



昨今の夏の酷暑や新型コロナウイルスの流行など、

社会的にも影響の大きい出来事が続いたことから、しばらくの間開催を見送っていた「つくばね夏祭り」でしたが、このたび新たに「けやきまつり2025」として、けやき社会センターにて令和7年10月18日（土）に開催されました。

当日は10月とは思えないほど気温が高く、夏を思わせる陽気の中での開催となりましたが、多くの方々にご来場いただき、終始にぎやかな雰囲気に包まれました。保護者の皆様をはじめ、地域の多くの方々にご協力をいただき、円滑かつ安全に運営することができました。

けやきまつりの開催に向けては、令和7年6月より担当職員による会議を重ね、準備を進めてきました。従来の「つくばね夏祭り」とは時期や規模が異なりましたが、過去の経験や資料を参考にしながら、新しい形で実施できるよう工夫を重ねました。



けやき社会センターでは、パンやきのこの販売に加え、DAY班で製作した作品の販売も検討し、日々の活動の中で意見交換を行いながら内容を具体化してきました。準備期間は十分に設けていたものの、実際に取り組みを進める中では想定外の調整や変更が多く、限られた時間の中で効率的に準備を進める必要がありました。職員一同が協力しながら、より良い形を模索し、最終的には開催に向けた体制を整えることができました。

前日には、多くの保護者の皆様のご協力のもと、バザー品の整理・陳列、テント設営、飾り付けなどが順調に進められ、会場全体の準備が整いました。当日の朝は、最終確認や一部の装飾の手直しを行い、予定どおり「けやきまつり2025」を開催することができました。

当日は、アスカ組の発表をはじめ、太鼓演奏、盆踊り、エアロビダンスなど、多彩な演目が披露され、来場者から多くの拍手が寄せられました。出店コーナーでは、わたあめ、やきそば、豚汁、フランクフルト等が販売され、利用者や地域の方々が食事や買い物を楽しむ姿が見られました。また、気温の高い一日であったため、かき氷が特に好評でした。



今回、新たに「けやきまつり」として開催したこと、多くの成果とともに、今後の改善に向けた課題も確認することができました。これらの経験を次回の開催に活かし、より充実した行事として発展させていきたいと考えています。準備・運営にご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

（けやき社会センター 植木 恒太郎）

